

日本新生児成育医学会 2020年度 第3回理事会議事録

日 時：2020年7月20日（月）15：00～17：00

開催方法：web会議システム WebEX を利用

出席：中村友彦，茨 聡，河井昌彦，河野由美，長 和俊，長谷川久弥，中西秀彦，早川昌弘，
飛弾麻里子，福原里恵，細野茂春，水野克己，山田恭聖，森岡一朗，和田和子，和田雅樹（各理事），
猪谷泰史，北島博之（監事），大木 茂，松本 敦（各幹事），芳本誠司（幹事）

欠席：日下 隆，高橋尚人，与田仁志，渡部晋一（各理事）

（敬称略）

議 事：

1. 理事長報告

1) 年会費請求の件

全会員 2,972 名中，名誉・功労会員 118 名を除く 2,854 名のうち延べ 2,171 名（75%）（6 月末日現在）より納入され 17,368,000 円，代議員費は 217 名より納入され 1,085,000 円の収入となった。年度末まで納付の催促を行い，納付率向上に努める。滞納している会員は資料の通りである。

滞納している方に個人的に声をかけていただきたい。

2) 次回理事会の件

次回（第 4 回）は日程を再調整し，web 開催を予定している。また，2020 年度社員総会は学会ホームページに議題を公開し，代議員の先生方に議案ごとに議決権の行使をもって審議を実施する。選挙後の新理事会は社員総会の終了後，web 開催を行う予定である。

3) 通信理事会議決結果報告の件

決議事項 2 件，その他連絡事項は 7 件であった。

4) 文献許諾使用料の件

メテオ社の昨年度（4～6 月）の文献使用料は合計 1,518 円であった。

5) 代議員へのアイデアボックスへの投稿があった件

- ・代議員の落合正行先生より学会から企業に対しアウトリーチ活動を行うことについてご提案があった。今後，積極的に活動していく予定である。
- ・箕面崎至宏先生からはガンマグロブリンの適応に溶血性貧血，溶血性高ビリルビン血症が追加されるよう，学会として働きかけをお願いしたいとの連絡があった。学会では平成 21 年に「血液型不適合性溶血性黄疸に対する免疫グロブリン療法」を「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議」に未承認薬・適応外薬として要望していたが，科学的エビデンスがなく海外からの報告でも有用性が示唆されなかったもので，要望を取り下げた経緯をお伝えした。

6) 役員選挙の件

代議員選挙は 6 月 8 日（月）16：00～開票を行い，250 名の新代議員が決定した。理事選挙は立候補期間が 6 月 25 日（木）～7 月 20 日（月）23：59 まで（オンラインのみの受付），投票期間は 8 月 3 日（月）～8 月 17 日（月）で，開票日は 9 月 2 日（水）16：00～事務局を置くメディカ出版の会議室にて行う予定である。

7) 2020 年度一般会計途中経過報告の件

収入は，21,305,761 円となった。COVID-19 の影響で医学生・研修医向け NICU 入門セミナーや抄録集発刊等が中止になったことから，支出は 15,644,449 円にとどまっており，現在の収支差額は 5,661,312 円の黒字である。

8) 理事長職務報告

通信理事会の開催、予算の作成・確認、小児用医療機器に対する医療ニーズ・医療実態調査とりまとめ、代議員からの要望への対応、各種規程の作成・確認等を行った。

9) JPS-SPR Fostering Leadership program 推薦の件

理事会からの推薦がないため、週明けに代議員に案内予定である。

*後日プログラムが中止となった。

2. 協議事項

第1号議案：2021年9月期予算および事業計画書の件（中村理事長・和田和子理事）

来期からの会費の値上げにより、収入は約700万円増える。支出は、例年、雑誌刊行費と事業費の医学生セミナー・教育セミナーに多くの経費がかかっている。来期のセミナーはweb会議システム等を利用し、経費を削減する方向で進めていくことが報告され、全会一致で承認された。

第2号議案：第64回学術集会会計報告の件（茨会長）

収入73,286,970円、支出71,245,823円で収支差額は20,411,147円となった。法人税は70,000円の支出で消費税は157,300円還付されることとなり、最終の残高は2,128,447円となった。Joint Congressの経費は学術集会事務局に会場費・付帯設備等を負担いただき、学会からの支出は1,578,850円となったことが報告され、全会一致で承認された。

第3号議案：新名誉・功労会員推薦の件（中村理事長）

新名誉会員に3名、新功労会員候補に18名を推薦することが全会一致で承認された。ご本人に諾否を伺うこととなった。11月は通信で社員総会が開催されるため、郵送で感謝状をお送りする予定である。

第4号議案：総務委員会：寄付規程の件（和田和子委員長）

企業から寄付を受け入れるために一般寄附金、特定寄附金、特別寄附金の受け入れについて定めた寄付規程が全会一致で承認された。

第5号議案：総務委員会：旅費規程の件（和田和子委員長）

役員や会員等が出張した場合に支払われる旅費について定めた旅費規程が全会一致で承認された。宿泊費の上限金額を13,000円としている。今後、学会から旅費を支払う際はこの規定に則って支払うこととなる。

第6号議案：編集委員会：投稿規定変更の件（河井委員長）

新しい投稿規定案が全会一致で承認された。これにより、医学生が筆頭著者として投稿可能となる。ただし、Corresponding Authorは学会員として、全面的な指導を行うことを前提とする。

第7号議案：編集委員会：学会誌デジタル印刷廃止の件（河井委員長）

学会誌は30巻1号より電子版とし、購読会員の他、印刷・製本された冊子版については希望者のみに1部3,000円にて有料販売を行ってきた。しかし現在の冊子版の購入希望者は正会員で5名、名誉会員1名のみとなっており、発行経費に毎号約20万円かかるため廃止することが全会一致で承認された。抄録集は学術集会会期中の販売分を印刷予定である。

第8号議案：社会保険委員会：次期診療報酬改定に向けた課題について日本小児科学会社会保険委員会の次期改定の課題（案）の紹介（和田雅樹委員長）

1985年に設定された現行のNICU施設基準である「常時3床に1名の看護師配置と1床当たり7.5m²の面積」については、進歩した新生児医療の現状に合致していないため、看護師配置を常時2床に1名、1床当たり15m²のNICU施設基準を設けて、相応の診療報酬上の加算とする案が出された。また、患児とその家族のプライバシー保持のために、15m²の床面積を確保した場合には、NICUの個室化とすることも検討されている。これらを提案するため、2021年春までに、①全国のNICU入院患者で、高度NICU管理が必要な新生児の数と高度NICU管理が必要であった日数、②全国のNICUで理学療法を実施した新生児の数と回数、③全国のNICUで心理指導を行った回数について調査が予定されている。

今後、出生数が少なくなるため2床に1名について加算を付けていくことは必要だと思われる、地方では看護師を集めることは難しいのではないかと、常時ではなく期間を限定して2床に1名で診れば財源をより有効に使えるのではないかと、等の意見が寄せられた。理学療法や心理指導の加算の件を含めて引き続き理事会MLで検討することとなった。

第9号議案：教育委員会：医学生・研修医向けNICU入門セミナー、教育セミナーの開催について（早川委員長）

- 医学生・研修医向けNICU入門セミナー：2020年の開催は中止としたが、2021年以降は経費削減のためweb開催を検討している。オンデマンド講義とするか双方向型するかについては今後委員会で協議し、決定していく。費用については、見積りを取り理事会に諮ることとする。
- 2021年以降の教育セミナーについては従来通り2泊3日で開催するが予算は450万円とする。講義についてはライブ配信を検討し、web聴講のみの場合の参加費やパスワードの管理などについては今後検討を行う予定である。

第10号議案：医療の質向上委員会：超低出生体重児の成人期までの心身健康問題把握調査を行う件（長委員長）

学会に超低出生体重児の成人期までの心身健康問題把握調査についての依頼が一般の方から寄せられたことを受け（2020年6月17日付で会員専用ページに掲載）、学会のフォローアップ事業として横断的な調査を行うことについて、全会一致で承認された。

第11号議案：第66回・第67回学術集会開催延期の件（中村理事長・長谷川会長）

2021年11月に開催を予定していた第66回学術集会について、第65回学術集会の開催延期に伴い、2022年11月に延期することについて提案があった。①2022年度事業である学術集会（2021年11月）は中止とし、2022年度は学術集会を開催しない。②2023年度学術集会は、2022年11月に細野理事が開催することになっていたが、長谷川理事が同時期に第66回学術集会を開催することに変更する。③2024年度の学術集会長は、本年9月まで立候補を募り11月の理事会で決定する予定であったがその予定を中止し、2023年11月に細野理事に第67回学術集会を開催していただく。④今後、災害等により学術集会中止に伴うキャンセル料が発生した場合は学会が負担する。以上4点について全会一致で承認を得た。①については新生児看護学会にも状況を伝える予定である。また、これにより2022年度は学術集会が開催されないため、新しい知見を共有することを目的にwebセミナーの開催を検討してはどうかとの提案があり、教育委員会で検討することとなった。

今後、不測の事態により学術集会が中止となるケースも考えられることから、理事長より以下5つの経費削減案が出され、今後、学術集会を開催される際に参考にさせていただきたいと呼びかけられた。①会長招宴を会費制にする、②役員は自己負担とする、③懇親会は必ずしも開催する必要はない、④新生児看護学会との費用の分配について、学会同士であらかじめ決定する、⑤会場はなるべく公共施設を利用し、迷う際には理事会で諮る。また、これまで慣例として3日間開催していることについて見直しを求める意見も出された。

3. 第65回学術集会の件（長会長）

最終的に実開催ができるかどうかかわからないが、2021年5月7日（金）～9日（日）に以下のような内容で進める予定である。

- 音声入りPPT（口演）とPDF（ポスター）で、一般演題を含む全ての演題を一定期間オンデマンド配信し、配信された演題に対する質問・コメントを、期間を決めて募集する。集まった質問は演者と座長に渡し、実開催の場面で活用する。
- 実開催する場合は、スライドは原則として事前に収集済みのものを使用し、ポスターは印刷した物を各自が持参・掲示する。また、質問・コメントと回答の一部をホームページで公開予定である。
- 参加登録は全て事前登録（2～4月）とし、登録者は実開催の学会参加とオンデマンド配信を視聴することを可能とする。事前登録の参加費は開催への参加の有無によらず一定とする。

- 実開催が難しい場合はオンデマンドの配信のみとする。
- 共催セミナーおよび機器展示のあり方、懇親会参加費の徴収方法等については検討中である。
- 7月末までに一般演題の採否通知を送り、8月末までに演題の取り下げ／修正の案内を送付・ホームページ掲載を行う予定である。査読等も終了しているため新規で演題募集は行わない。ただし、English session (E-poster) は追加で募集を行う予定である。ハンズオンについては実開催できる場合のみ開催予定である。

4. 第66回学術集会の件（長谷川会長）

先の第11議案での承認を受けて、2022年11月24日（木）～26日（土）にパシフィコ横浜にて開催することとなった。

5. 第67回学術集会の件（細野会長）

先の第11議案での承認を受けて、2023年11月2日（木）～4日（土）にパシフィコ横浜で開催予定である。他の学会との重複がないか確認を行う予定である。

6. 各種委員会報告

1) 社会保険委員会（和田雅樹委員長）

1. 「新型コロナウイルス感染症に係る診療報酬上の臨時的な取扱いについて」の追加事項（その19, 12改, 19改, 22, 23）について学会員に通知を行った（今後も適宜、追加予定）。
2. 2020年診療報酬改定結果における不合理や矛盾点に関して、内保連に以下の3点を報告した。
 - 低体温療法に関する記載：心停止に至らない中等度～重度の仮死児への適応が望ましい
 - 小児特定疾患カウンセリング料：入院児に対しても加算すべき
 - NO吸入療法：日齢28以降の児へも適応拡大すべき
3. 厚労省内科系医療技術負荷度調査（DPC適正化に向けた調査）への協力者追加推薦については調査を進行中である。

2) 学会将来構想委員会（高橋委員長）

新生児医療連絡会との共同で開始した新生児医療提供体制・新生児科医勤務状況の全国調査の回答について、数回催促を行ってきたが、最終的に7月5日で締め切り、現在、解析中である。結果の一部は、第123回日本小児科学会学術集会シンポジウム「小児科医としての働き方改革の課題とその方策」で報告する。最終的には来年の第65回新生児成育医学会で講演として報告を行う。

3) 調査研究審査委員会（高橋委員長）

予防接種感染対策委員会より依頼のあった「新型コロナウイルス感染症の母親から出生した新生児の出生後早期の管理経験の報告の募集および公開等」について、研究倫理委員会の審査を回避できる方法の検討を行った。個人が特定されないように配慮した上で、学会ホームページ公開は学会員専用ページとし、口頭・カルテ記載でも良いので同意を得ることを条件に審査は回避できると判断し報告した。

4) 学会誌編集委員会（河井委員長）

2020年度は掲載不可になっているものもあるが、COVID-19の影響か、例年に比べて投稿が多い。懸案事項の英文誌発刊については見積もりを取ったが、年2回発刊すると150～200万円程度必要となるため、今後検討していきたい。

5) 教育委員会（早川委員長）

特になし

6) 薬事委員会（飛弾委員長）

「汎用され安定確保に特に配慮が必要な医薬品の選定」について：近年のCEZやABPCなどの一部の抗菌薬供給不安定案件の経験から、厚労省に「医療用医薬品の安定確保策に関する関係者会議」が設置され、該当する薬剤について検討されている。同会議での参考材料とするために、厚労省より日本医学会に候補薬剤

リスト作成の依頼があった。日本小児科学会では各分科会に候補薬剤を募集し、当学会からは51薬剤を答申した。日本小児科学会からは104薬剤が日本医学会に提出され、2020年6月26日に開催された厚労省会議での資料に組み込まれた。

7) 男女共同参画推進委員会（河野委員長）

学会将来構想委員会と合同で行ったアンケート調査の集計と解析を進め、来年度の学会で発表予定である。

8) 利益相反委員会（山田委員長）

利益相反に該当する案件はなかった。

9) 感染対策予防接種委員会（森岡委員長）

1. 新型コロナウイルス感染症の母親から出生した新生児の出生後早期の管理経験の報告の募集および公開を行っており、現在、5例を公開しているのでご確認いただきたい。
2. 新型コロナウイルス感染症の母親から出生した新生児のレジストリを2020年6月12日より開始した。
3. 小児RSウイルス呼吸器感染症診療ガイドラインの作成について、本学会と日本小児呼吸器学会で進めている。本学会の感染対策予防接種委員会と医療の標準化委員会の委員と連携の上、対応している。クリニカルクエスション等があるので、中西理事と対応を進めている。
4. NICU・GCUにおけるロタウイルスワクチンの定期接種化に伴う考え方を作成し、理事会の承認のもと、2020年7月9日にホームページに公開した。COVID-19感染者が増えているので、今後もアップデートしていきたい。

10) 医療の標準化委員会（中西委員長）

1. 「パルスオキシメトリーによる重症先天性心疾患の新生児スクリーニング」の実施に向けて、診療委員会メンバーと（与田委員長、豊島委員、中野委員）とメール会議を行った。COVID-19の影響で進められていないが、プロトコル案について引き続き学会発表と論文発表（投稿準備中）を行い医療者に周知していく。
2. ガイドライン小委員会の設置について
諫山先生とWeb会議を行い構成メンバーの選出方法案について検討した。標準化委員会メンバーが所属する施設や、代議員にかかわらず公募により召集するなどを検討。標準化委員会内でWeb会議を開催する予定。痛みのガイドラインについても、新生児看護学会と協力しながら進める予定である。
3. 小児呼吸器学会との連携：「小児RSウイルス呼吸器感染症診療ガイドライン」を作成した。
出版社、森岡理事と、ガイドラインのレベル、CQ等を調整中である。
4. DPCデータを用いた小児領域のQuality indicatorの開発
前回理事会での承認を受け、正式に、同研究テーマ（研究実施者：国立成育医療センター情報管理部門 新城大輔先生）に対する連携・サポートを開始した。WEB会議を実施し、ガイドラインに基づいた推奨医療行為の実施の度合いや、再入院・術後合併症等の避けるべきアウトカムの発生/予防を数値化して評価するための指標となるQIについて意見交換を行った。

11) 医療の質向上委員会（長委員長）

1. 稀有疾患（病態）サーベイランス事業

1) 調査中の疾患（2020年7月20日現在）

「サイトメガロウイルス（CMV）関連敗血症様症候群」登録11件

「新生児偽性低アルドステロン症」登録6件

「MIRAGE症候群およびMIRAGE症候群関連疾患」登録5件

「新型コロナウイルス感染症の母体から出生した児の実態把握のための探索的観察研究」（2020年6月12日から）

2) 調査を修了した疾患

「新生児血球貪食性リンパ組織球症 (HLH) および新生児ヘモクロマトーシス」登録 40 件

「先天性トキソプラズマ感染症」18 件

12) 倫理委員会 (福原委員長)

特になし

13) 災害対策委員会 (茨委員長)

「被災地の避難所等で生活をする赤ちゃんのための Q&A」の中国語 (簡体字) 中国語 (繁体字), ポルトガル語, 英語, ベトナム語, 韓国語の翻訳を学会ホームページに出ている。

14) 学術委員会 (長谷川委員長)

2019 年度学術奨励賞は, 加藤英子先生 (公立陶生病院) の「Factors related to survival discharge in trisomy 18: A retrospective multicenter study. Am J Med Genet A. 2019 Jul; 179(7): 1253-1259.」に決定した。

15) 産科医療補償制度対応委員会 (細野委員長)

特になし

16) 診療委員会 (与田委員長)

特になし

17) 広報委員会 (水野委員長)

学会ホームページは, 新型コロナ関連まとめページ, 学術集会のページが多く確認されており, 関心が高かったことがうかがえる。関連学会の web セミナーなど掲載すべき内容があれば随時掲載していきたい。

18) 国際渉外委員会 (日下委員長: ご欠席)

COVID-19 の影響で第 4 回 Joint Congress, 韓国の春の学会も延期となっている。

19) 総務委員会 (和田委員長)

特になし

20) 医療安全委員会 (中村理事長)

特になし

21) その他

水野理事より医学部の学生で新生児に興味を持っている方への対応について相談があり, 早川理事から, 教育委員会で作成した到達目標をぜひ使っていただきたいとの提案があった。